

STEP

一般財団法人 四国産業・技術振興センター

ねっとわーく

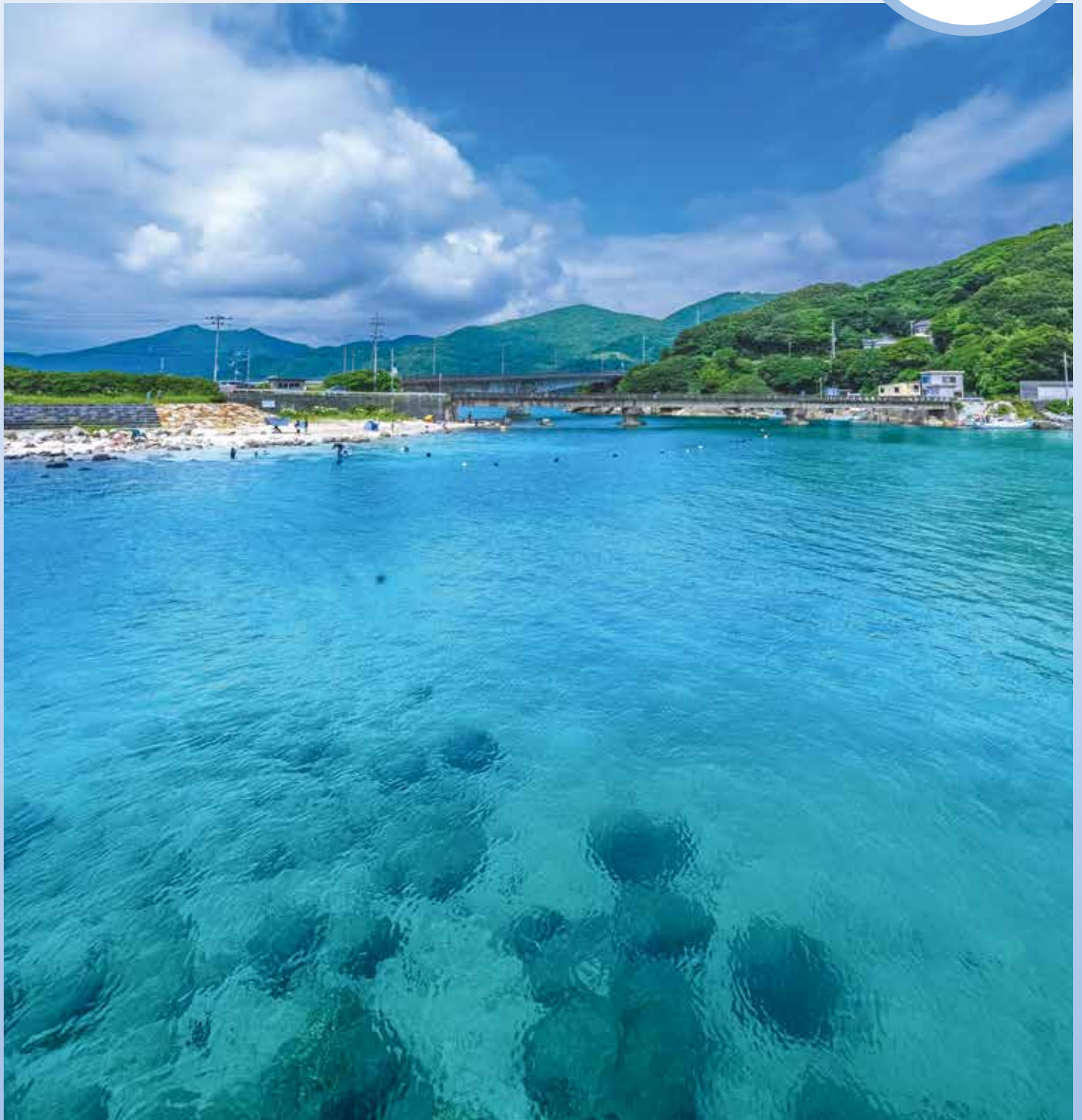
Shikoku Industry & Technology Promotion Center

巻頭言 一般財団法人 四国産業・技術振興センター 理事長 杉ノ内 謙三

お知らせ 2026年度産学共同研究開発助成事業の募集
2026イノベーション四国顕彰事業(募集予告)

2026

夏号



柏島ビーチ(高知県)

巻頭言

新理事長 就任のご挨拶

一般財団法人 四国産業・技術振興センター
理事長 杉ノ内 謙三

01

お知らせ

- 2026年度産学共同研究開発助成事業の募集
- 2026イノベーション四国顕彰事業（募集予告）

02

事業活動の紹介

(1) 新技術・新製品開発の支援	04
① 成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech事業）成果報告	
② 2025年度事業化案件研究調査事業の成果報告	
③ 2026年度事業化案件研究調査事業の助成先決定	
④ 四国経済産業局「令和7年度フードテック分野における知財活用支援事業」 実施報告	
(2) プラットフォームを活用した支援	11
① 令和8年度 機能性食品の普及と創出支援の概要	
② 令和8年度 CNFを活用した新事業の創出支援の概要	
③ 「四国健康支援食品普及促進協議会」令和7年度総会開催	
(3) 販路・用途開拓の支援	15
① 令和8年度マッチングサイト「ヘルシー四国」活用による販路開拓支援の概要	
② 四国健康食品普及促進協議会 ifia JAPAN 2026に出展 マッチングウェブ「ヘルシー四国」登録企業の紹介（有限会社 高島産業）	
(4) その他の事業	18
① 令和8年度定例理事会・定時評議員会開催	
② 令和8年度上期IC・支援機関連絡会開催	
③ 全国地域技術センター連絡協議会 事務連絡会	
④ 第二期四国地域連携支援計画（高機能素材関連分野）全体会合	
新賛助会員の紹介	25
大塚テクノ株式会社	
賛助会員からのトピックス	26
四国計測工業株式会社	
トピックス	28
独立行政法人国際協力機構四国センター（JICA四国）の事業紹介 JICAのWEBサイトに当センターの活動が掲載されました	
ICの活動報告	34
ICの活動報告（青野洋一）	
賛助会員入会のご案内	35
STEPのひとりごと	36
編集後記	

新理事長 就任のご挨拶

一般財団法人 四国産業・技術振興センター
理事長 杉ノ内 謙三



本年6月に、池澤前理事長の後任として理事長に就任いたしました杉ノ内でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

当センターは、四国地域における技術の普及啓発および産業活性化に関する諸事業を推進し、地域経済の発展に寄与することを目的として昭和59年に設立され、これまで新技術・製品開発や販路・用途開拓の支援などに取り組んでまいりました。

また、四国において産業支援に取り組む産官学48機関で構成する「四国地域イノベーション創出協議会（イノベーション四国）」をはじめ、「四国CNFプラットフォーム」、「四国健康支援食品普及促進協議会」、「四国フードイノベーション推進会議」の事務局を担うことにより、企業支援ネットワークのハブとしての機能を充実・強化するとともに時代のニーズに沿った新たな分野にも支援領域を広げてまいりました。

これらの事業運営につきましては、長年に亘って格別のご支援、ご協力を賜っております会員企業をはじめ、四国経済産業局、産業技術総合研究所四国センター、中小企業基盤整備機構四国本部、四国四県の自治体・大学・高専・試験研究機関・産業支援機関などの皆さまの貴重なお力添えに支えられており、改めまして厚く御礼申し上げます。

今後とも、当センターが培ってきた支援事業を拡大・深化させて行くとともに、イノベーション四国の関係機関などとの相互連携を図りながら、現場に出向く活動とデジタル技術の活用を両輪に、支援企業と二人三脚で取り組む伴走型支援で、四国地域でのイノベーションの創出や四国の企業を元氣していく活動を全力で進めてまいります。

四国では人口減少をはじめ様々な課題が指摘されていますが、一方で独自の技術や特徴のある経営でキラリと輝く企業も数多く活躍しており、私はそうした独創性を育む土壌が四国にはあるのでは感じています。当センターが四国各地のキラリと輝く、またこれから輝こうとされている企業様へのご支援を通じて、域内産業における課題解決のお役に立てるよう努めてまいりたいと考えておりますので、引き続き変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

プロフィール

杉ノ内 謙三（すぎのうち けんぞう）1961年生まれ 香川県出身

【職歴】1984年 4月 四国電力株式会社 入社

2015年 6月 同社 総合研修所長

2017年 6月 同社 人事労務部長

2018年 6月 同社 執行役員 人事労務部長

2020年 6月 同社 常務執行役員 人事労務部・総合研修所・総合健康開発センター担任

2023年 6月 同社 取締役 常務執行役員 総務部・立地環境部・人事労務部・総合研修所・総合健康開発センター担当

2026年 6月 一般財団法人 四国産業・技術振興センター 理事長

2026年度産学共同研究開発助成事業の募集

企業と大学等の共同研究・製品開発に助成を行います

当センターは、イノベーション四国と連携し、企業の技術開発・販路開拓をはじめとするイノベティブな取り組みに対する支援を行っており、四国の中小企業が大学・高専および公設研究所等と行う共同研究・製品開発について、下記のとおり、助成対象事業の募集を行います。

◆「産学共同研究開発助成事業」募集概要

対 象 者	大学・高専および公設研究機関等（以下「大学等」という。）の研究者と共同研究開発を実施しようとする四国内に本社または事業所を持つ中小企業等とします。 なお、大学等の所在地は問いません。
対 象 事 業	企業が取り組み中または検討中の技術開発・製品開発のうち、大学等と共同で行う研究開発事業とします。 ただし、助成対象となる研究期間は2026年9月1日から2027年8月31日までの間とします。
対 象 経 費	当該事業の実施に直接必要な経費（共同研究費および消耗品費等自主研究費）
支 援 金 額	1件あたり50万円（消費税込み）を限度とします。
研 究 期 間	1年以内（2026年9月1日～2027年8月31日までの間）
募 集 期 間	2026年7月1日（水）～7月31日（金）
応 募 方 法	所定の申請書に必要事項を記載のうえ、当センターに提出 （申請書様式は、当センターのホームページからダウンロードできます。） https://www.tri-step.or.jp/support/development/application-requirements/
選 考	採択件数は4件程度を予定しており、審査委員会において、「技術面」「事業化面」「政策面」について書類審査および必要な時はヒアリングを行い評価した上で決定します。
採否等の通知	8月下旬頃に応募者宛てに通知します。
実 績 報 告	事業完了後、実績報告書を提出していただきます。
応募に関するお問い合わせ・お申し込み先	〒760-0033 高松市丸の内2番5号 一般財団法人四国産業・技術振興センター 産業振興部 漆原 TEL: 087-851-7081 FAX: 087-851-7027 E-mail: step@tri-step.or.jp

2026イノベーション四国顕彰事業（募集予告）

第31回四国産業技術大賞

■四国産業技術大賞

●公募期間 令和8年9月1日（火）～10月31日（土）

（表彰区分）

①産業技術大賞 ②革新技術賞 ③革新産業賞 ④技術功績賞

四国地域の産業技術の発展に顕著な功績があった企業等を表彰することにより、企業等の士気高揚を図り、四国地域の産業技術の高度化に資することを目的とします。

2025イノベーション四国顕彰事業

令和7年度 四国産業技術大賞受賞者一覧

受賞種別	受賞者名 (所在地)	受賞概要	推薦者
産業技術大賞	大塚テクノ株式会社 (徳島県鳴門市)	小さなバイメタルディスクが、大きな安全を生む『超小型サーマルプロテクター』	徳島県立工業技術センター
最優秀 革新技術賞	株式会社パル技研 (香川県高松市)	安全安心な街づくりを実現する大型・特殊車両向けエッジAI端末の開発	香川県産業技術センター
最優秀 革新産業賞	愛媛県酒造協同組合 (愛媛県松山市)	県産清酒用花酵母「愛媛さくらひめ酵母」の開発及びそれを活用した県産酒の製造	愛媛県 中小企業団体 中央会
最優秀 技術功績賞	株式会社イトウ (愛媛県四国中央市)	国産竹活性炭と紙を素材としたSDGs対応ECO脱臭フィルターと装置の開発	徳島文理大学
優秀 革新技術賞	カミ商事株式会社 (愛媛県四国中央市) 株式会社山本鉄工所 (徳島県小松島市)	脱プラ・脱炭素を実現する100%CNF成形体『アモルセル®』の開発	愛媛経済同友会
優秀 革新産業賞	石丸製麺株式会社 (香川県高松市)	おいしさと健康機能性を兼ね備えた新しい乾麺の開発	香川県産業技術センター
優秀 革新産業賞	株式会社土佐組子 (高知県高知市)	組子耐力壁	高知県工業技術センター
優秀 技術功績賞	株式会社ゆうばく (愛媛県西予市)	畜産ICT/DX畜産農家自身が現場経験、知見を活かした牛肥育管理システムの開発	愛媛県 産業技術研究所
奨励賞	株式会社ヨコタコーポレーション (徳島県吉野川市)	環状金属研削面用AIキズ刻印検査装置	徳島県立工業技術センター
奨励賞	カクケイ株式会社 (愛媛県四国中央市)	ヘアカットトレーニング用ペーパーウィッグ	愛媛県 産業技術研究所
奨励賞	富士紙化学株式会社 (高知県土佐市)	美容現場の課題から生まれた二層構造ブリーチングペーパーの開発	高知県立紙産業 技術センター

1 新技術・新製品開発の支援

①成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech事業）成果報告

令和5年度Go-Tech採択事業「難治性疾患に対する治療薬の創薬のための新たな医薬品候補物質の提供手法の確立」については、令和8年3月末で3年間の研究期間が終了したので、その成果概要を報告します。

【開発概要】

入交生命工学は、独自に開発した化合物ライブラリーを用いて難治性疾患治療の研究を進めてきた。これまでの研究結果から得られた課題認識を踏まえ、本研究開発では、創薬に資するよう、新たな化合物の追加によるライブラリーの充実と、これを用いた創薬に有効な化合物の選択・提供技術の向上・確立を行う。研究開発を完成させ、個別の疾患に対して創薬の候補となる化合物を製薬会社へ提供するサービスの事業化を目指す。

【研究体制】

事業管理機関：一般財団法人四国産業・技術振興センター

研究実施機関：入交生命工学株式会社（PL）

：国立大学法人東海国立大学機構（名古屋大学）（SL）

：エポメッド株式会社

【研究開発の成果】

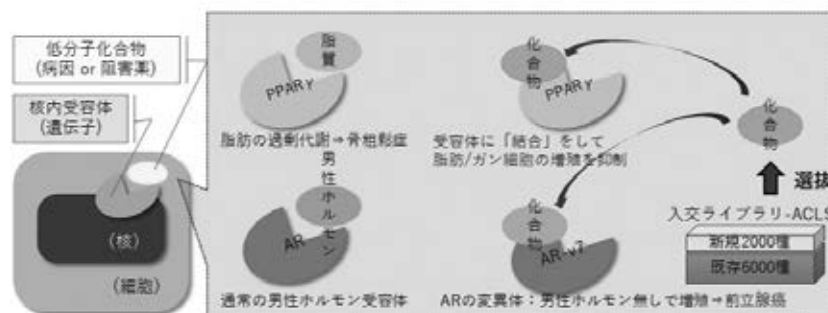
■新しい籠型骨格を用いた化合物ライブラリー 2505（目標値 2000）を完成

■化合物の有効性評価

- ・2種類の活性評価系 PPAR γ 活性評価系（骨粗しょう症、糖尿病、がんに関与する）及び AR-V7 活性評価系（治療抵抗性前立腺癌に関与する）を構築
- ・3222化合物の PPAR γ 阻害活性評価及び2349化合物の AR-V7 阻害活性評価を実施
- ・最終的に IRT401282 を選抜（PPAR γ 活性評価系 3 μ M で100%の阻害）

■AI（X-DeepSARM）を活用した化合物合成技術の検討

入交生命工学が目指すタンパク質間相互作用阻害（難治性疾患治療）のメカニズム



【顧客開拓】

令和7年10月8日～10月10日 パシフィコ横浜で開催された「バイोजパン」への参加により、入交生命工学の化合物ライブラリーをPRするとともに、新たな顧客開拓を行った。

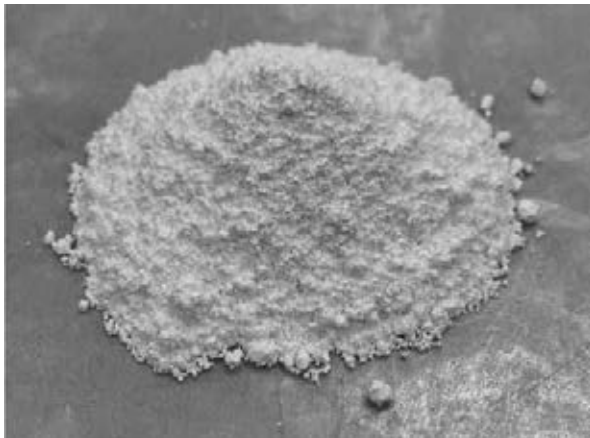
○当技術の連絡窓口

入交生命工学株式会社 URL : <https://irimajiriseimei.com/>

研究本部・研究本部長 小路 弘行 TEL 088-837-3100 FAX 088-837-3103

②2025年度事業化案件研究調査事業の成果報告

◆井上石灰工業株式会社の研究調査成果

研究調査テーマ名	高機能性酸化カルシウムの製造方法確立および用途開発に関する研究調査
実施期間	2025年4月 ～ 2026年 2月
企業名	井上石灰工業株式会社
共同研究企業等	なし
研究調査概要	電子部品の小型化・高性能化やフィルムの高機能化に伴い、ナノレベルで制御された機能性材料の需要が高まっている。弊社では独自技術により、ナノスケールで構造制御された高機能性酸化カルシウムの開発に成功したが、工業化に向けては製造技術の確立が課題となっている。本研究では、この新規材料の製造方法確立を目指し、半導体封止材やフィルム分野での実用化に向けた研究調査に取り組む。
研究調査成果	本研究では、「高機能性酸化カルシウム」の量産技術の確立に取り組んだ。独自の材料制御技術をベースに製造プロセスを最適化した結果、品質の安定化と高度な微細化制御を両立する技術的基盤を構築することに成功した。  実用化に向けた検証過程では、特定用途で性能を最大限に引き出すための材料設計上の課題を明確にし、事業化に向けた重要な知見を蓄積できた。今後は、得られた成果をもとに配合の最適化を行い、機能性材料での実用化を目指していきたい。

◆株式会社中温の研究調査成果

研究調査テーマ名	高圧処理を使用した加工食品の開発
実 施 期 間	2025年4月 ～ 2026年2月
企 業 名	株式会社中温
共同研究企業等	国立大学法人愛媛大学大学院、ニッシン・グルメビーフ株式会社
研 究 調 査 概 要	青パパイヤなどの端材野菜と、硬く市場価値の低い経産牛をモデルに、高圧処理による野菜の栄養・うま味成分の肉への浸透性や、肉の軟化・熟成効果を検証する。圧力・処理時間など最適条件を探索し、試作品について安全性評価、テクスチャーなどの物性評価、官能評価を実施。得られた結果を基に製品化・事業化を目指す。
研 究 調 査 成 果	
パパイヤ由来のたんぱく質分解酵素と高圧処理を組み合わせることにより、市場評価が比較的低く硬質化しやすい経産牛由来牛肉へのパパイン液の浸透促進および軟化効果が確認された。本検討により、製品開発に向けた基礎データを得た。  本研究開発の結果、これらの酵素を添加し高圧処理を行うことでペプチドおよび遊離アミノ酸の生成が促進され、旨味の総合指標となる総アミノ酸量は未処理区の178.9 mgから270.8 mgへ増加した。 肉の硬度については、未処理の牛もも肉とパパイン液を添加し高圧処理を行った試験区を、クリーブメーターにより測定した。その結果、高圧(100MPa)条件下で酵素を添加し高圧処理を実施した区は、過度な組織崩壊を起こすことなく最大荷重値が低下し、適度な軟化が確認された。 高圧処理は加熱処理と異なり、風味成分の揮発やメイラード反応を伴わないため、生に近い風味を保持できる技術である。本研究では、高圧技術と酵素処理を併用することで、肉を軟化させつつ肉本来の風味を保持できる条件を見出した。製品化を想定した場合、高圧(100MPa)条件では増殖抑制および保存性向上効果は期待できるものの、十分な殺菌効果は得られず、原料肉の初発菌数に影響を受けることが明らかとなった。今後は安全性確保の観点から、高圧(100MPa)を超える条件における殺菌効果についても検証を進める予定である。	

◆大和酸素工業株式会社の研究調査成果

研究調査テーマ名	稚ウニ餌料としての付着性微小藻類の培養条件の研究
実施期間	2025年4月 ～ 2026年2月
企業名	大和酸素工業株式会社
共同研究企業等	なし
研究調査概要	近年、日本でのウニ類の漁獲量は減少傾向にあるが、国内・海外でのニーズは増加している。したがって、放流や養殖によってウニの漁獲・生産量を増やすことはビジネスとしてかなり有望である。しかし現状では、放流や養殖に必要な稚ウニの供給が十分ではない。そこで、稚ウニを飼育するために不可欠な餌料藻類の培養条件を明らかにし、稚ウニを効率的かつ安定的に供給できるようにしてウニ漁やその養殖事業の活性化を図る。
研究調査成果	

本研究では、閉鎖水槽を用いて付着性微小藻類の培養実験を行い、水温と光条件が藻類生育に与える影響を比較した。18℃および15℃の水槽に採苗板を設置し、照明条件を強照明区と弱照明区に分けて培養した。約1か月半後に採苗板を回収し、写真撮影後、画像解析ソフトFijiを用いて表面の明度(L値)と色相(Hue値)を測定し、生育状況を評価した。その結果、18℃区では褐色の付着藻類(珪藻類優占)が、15℃区では緑色の付着藻類(緑藻類優占)の生育が示唆され、水温が藻類群集組成に大きく影響する可能性が示された。また18℃区では強照明

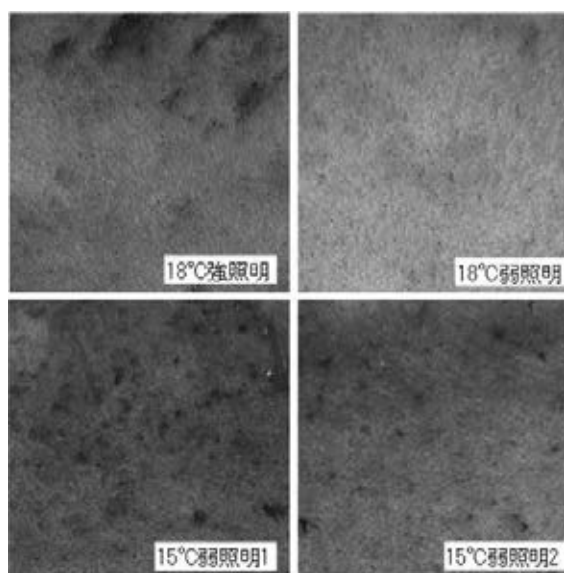


図3 1.5ヶ月間培養した採苗板上の藻類

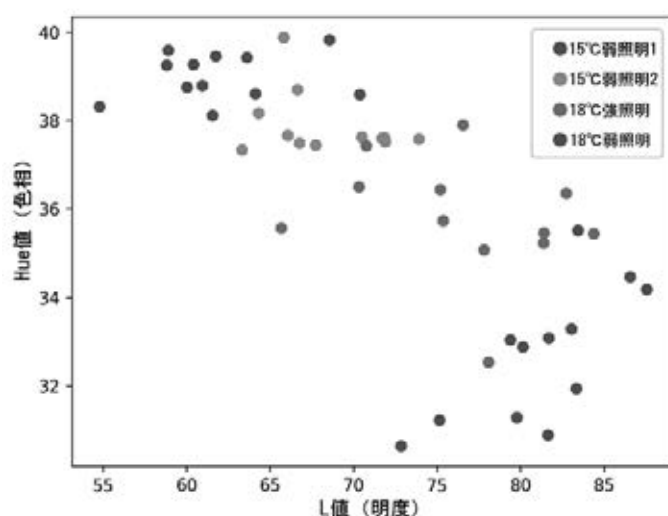
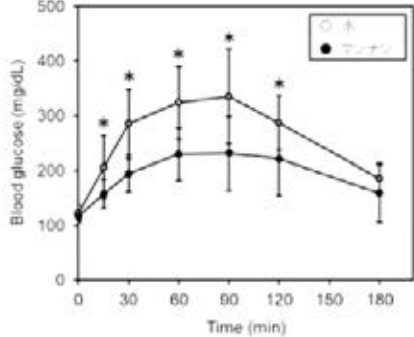
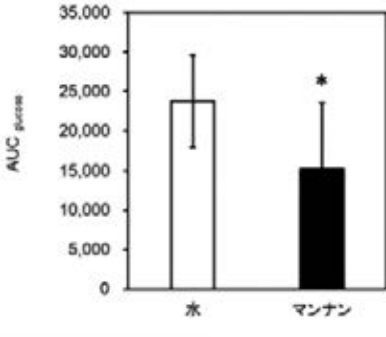


図6 L値(明度)×Hue値(色相)の散布図

の方がより濃い褐色を示し、光量増加が珪藻類の増殖を促進する可能性が示唆された。また、画像解析による明度および色彩の組み合わせ解析によって培養状況の異なる各実験区がクラスタ分離される結果となり、この分析は餌料付着微小藻類群集の簡便な評価手法として有効である可能性が示唆された。

◆株式会社ハマダフードシステムの研究調査成果

研究調査テーマ名	犬・猫などの健康に配慮した、こんにゃく(マンナンミルク)を原料とする低カロリー機能性ペットフード開発に向けたエビデンス取得事業
実施期間	2025年4月 ～ 2026年2月
企業名	株式会社ハマダフードシステム
共同研究企業等	ハイスキー食品工業株式会社、国立大学法人香川大学
研究調査概要	本研究では、大塚製薬株式会社によって開発された2型糖尿病モデル「OLETFラット」の雄を8週齢から、25℃±2℃、自由摂食、水もしくは3%マンナンミルク水溶液を自由接種の条件下において、条件ごとに10匹ずつ飼育し、開始時点および飼育後経時的に、体重、摂食量、摂水料、血糖値を測定した。また、37週齢において当負荷試験を行った。
研究調査成果	2型糖尿病モデルである「OLETFラット」を用い、マンナンミルク摂取が糖尿病病態に及ぼす影響を検討した結果、体重、摂食量および摂水量については両群間で差は認められなかった。一方、血糖値は試験群において対照群と比較して上昇が抑制され、糖負荷試験においても耐糖能の改善が確認された。これらの結果から、マンナンミルクは体重増加等に影響を与えることなく、血糖コントロール改善に寄与する可能性が示唆された。 本成果は、マンナンミルクを活用した機能性食品、特定用途向け栄養補助食品、ならびに糖尿病予備群・生活習慣病対策市場向け製品の開発可能性を示す基礎データとなる。今後は作用機序解析、安全性評価、ヒト臨床試験による検証を段階的に実施し、機能性表示食品等としての製品化を目指す。 (OLETFラット)  (OLETFラットの糖負荷試験結果) A  B 



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助を受けて実施しました。

<https://www.jka-cycle.jp/>

③2026年度の事業化案件研究調査事業支援先が決定しました

当センターでは、四国地域イノベーション創出協議会と連携し、事業化を目指す四国の中小企業様の技術開発・製品開発に関する2026年度の支援事業の公募を行い、厳正な審査を経て、以下の3件を支援先として決定いたしました。

当センターならびに四国地域イノベーション創出協議会は、技術開発・研究開発の支援に加え、開発終了後も成果の事業化や販路開拓等について引き続きフォローアップを行うこととしています。

●2026年度事業の支援先

企 業 名	研究開発テーマ、要約
株式会社 amidex	「咬合負担の強い臼歯部欠損における低侵襲修復形態の研究調査」 臼歯部1歯欠損に対する治療は、従来、隣接歯を削って人工歯を被せる方法が主流であった。当社はこれまで歯を削らずにCRを接着して欠損部を修復する手法を提供してきたが、構造上の不安から選択されにくい課題があった。本研究調査では、欠損部に人工歯を設けず、両隣の歯を延長する「エクステンション・ビルドアップ」に着目し、形態や材料条件の試作と歯科医師評価を通じて、安心して選択可能な修復設計の妥当性を検証する。
シンワ株式会社	「各種金属イオン・極性分子を吸着するナノファイバー積層体の試作」 エレクトロスピニング法を利用して、吸着特性の異なるナノファイバーシートの積層体を開発する。これにより、これまでより多様な物質の吸着除去・回収を目指す。このために、ナノファイバーを表面修飾するための新規物質を開発するとともに、積層体が形成できるエレクトロスピニングの条件を探索する。
株式会社セツロテック	「品種改良加速技術(ゲノム編集等)を活用した酵母の食品開発」 セツロテックでは、徳島のシンボルともいえる眉山に咲くアザレアなどから酵母を採種して協業先とビールの開発に取り組んできた。一方で、セツロテックは徳島大学発のゲノム編集技術を活用した事業を展開しており、ビール酵母に品種改良加速技術(ゲノム編集等)を適用して、風味の異なったビールを作れる酵母の開発を試みたい。



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助を受けて実施します。
<https://www.jka-cycle.jp/>

④ 四国経済産業局「令和7年度 フードテック分野における知財活用支援事業」実施報告

当センターは、四国経済産業局事業「令和7年度 フードテック分野における知財活用支援事業」を受託し、四国地域のフードイノベーションの創出が期待できるようなエコシステム構築を見据えた活動を行いましたので、以下のとおり概要を報告します。

当センターとしては、四国地域のフードイノベーション推進に向けた各種活動に協力していく所存です。

〈事業実施概要〉

実施項目	実施内容
ピッチイベントおよび展示会の開催	「SHIKOKUフードイノベーションサミット（令和8年1月@松山）」として、ピッチイベントと展示会を開催しました。 ピッチイベントでは、全国的に活動する合同会社シーベジタブル様による基調講演のほか、四国の企業9社が自社技術を活かした製品開発やマーケティング戦略の成果を発表しました。有識者からの助言も得られ、企業にとって有意義な機会となりました。 また、愛媛大学の産学連携インターンシップや香川大学のフードイノベーションに関する学生主体の発表も高く評価されました。 展示会には、四国4県の企業・公設試験研究機関・大学など27者が出展し、取り組みの認知向上や新たな交流の創出に寄与しました。大手小売業のバイヤーも招致し、販路拡大に向けた意見交換が行われ、企業の出口戦略検討にも役立つ場となりました。 「SHIKOKUフードイノベーションサミット」の実施内容は、 「STEPねっとわーく 2026春号（P18-P21）」で紹介しています。 https://www.tri-step.or.jp/mng_26463/wp-content/uploads/2026/04/33b6aeff805efd8868d0c6d97645f38e.pdf 
四国地域におけるフードイノベーション構築に向けた調査	食分野においてイノベーション活動を行っている国内他地域の先行事例（15団体）について調査を実施しました。 また、今後の四国の複数県にまたがるエコシステムの構築の参考として、関西圏（京都、奈良、大阪）を活動範囲とする「学研フードテック共創プラットフォーム（けいはんな学研都市）」を訪問し、プラットフォームの運営等のノウハウについて、聞き取り調査を行いました。 この調査から、地域の強みを活かし重点領域のグループ（分科会）を組成することで、濃密なコミュニケーションや次の取り組みの展開へつながりやすい効果があると示唆されるなど、四国地域でのフードイノベーション促進に参考となる情報が得られました。
四国フードイノベーション推進会議および公設試等コミュニティ会議の開催	四国4県の自治体、大学、産業支援機関、知財専門家、金融機関、企業の代表など23機関からなる「四国フードイノベーション推進会議」を開催し、四国のフードイノベーション推進に向け、国および県が相互に補完し、相乗効果を期待できる事業体制のあり方について意見交換を行い、多くのご意見をいただきました。 また、フードテックに関する相談窓口である公設試験研究機関および知財専門家からなる「公設試等コミュニティ会議」を開催し、今後のコミュニティマネジメントハブとしての活動に関する議論を行いました。
四国域内学生へのフードテックの関心度向上に向けた活動	大学生などの若い世代に対し、フードテックへの関心度を高めることを目的として、香川大学創造工学部の協力の下、「加圧熱水抽出技術」のブランディングに取り組み、企業開発者と学生が協働でワークショップを行うなど積極的な活動を行い、企業の技術を表現するシンボルマークの作成を行いました。 ブランディングの成果物であるシンボルマークは、2025年10月に開催された食品開発展（東京ビッグサイト）において実際のブース装飾に活用されました。

2 プラットフォームを活用した支援

①令和8年度 機能性食品の普及と創出支援の概要

四国における機能性食品創出に向けた取り組みとして実施している四国健康支援食品制度（ヘルシー・フォー）について、各種展示会・セミナーにおいて紹介し、認知度向上の取り組みを行うとともに、協議会会員間の交流促進に係る活動を行います。

事業名	概要
四国健康支援食品制度（ヘルシー・フォー）の運用	・関係・連携機関が主催する各種セミナー、展示会等でのPR活動 ・四国食品素材論文ライブラリーの内容充実 など
四国健康支援食品普及促進協議会活動	・協議会会員への食品機能性に関する各種情報提供（雑誌、新聞、中央省庁ホームページなど） ・本制度適用申請に関する講習会の開催 ・本制度の検討・申請手続きなどに関するサポート（個別対応） ・会員間の相互交流、特定の課題・テーマに関する会合の開催 ・製品開発・販路開拓に関するサポート（個別対応） など

四国健康支援食品制度（ヘルシー・フォー）認証食品

	認証番号	認証事業者	所在地	商品の名称（形態）	対象素材（※）
2017年度	第01-0001号	(株)レアスウィート	香川県	レアシュガースウィート(甘味料)	希少糖 (ブシコース、ソルボース、タガトース、アロース)
	第01-0002号	自然免疫応用技研(株)	香川県	健康茶さらそま(お茶)	バントエア・アグロメランス由来LPS
	第01-0003号	酔鯨酒造(株)	高知県	KENNOU けんのう(清涼飲料水)	葉酸、ビタミンB6、 ビタミンB12
	第01-0004号	バイオアイ(株)	大阪府	美ッ栗ポリフェノール(サプリメント)	栗渋皮抽出物 (愛媛県の企業が製造)
2019年度	第05-0005号	メディカルネットサーバー(株)	東京都	サンケイパワー(サプリメント)	バントエア・アグロメランス由来LPS (香川県の企業が製造)
	第05-0006号	メディカルネットサーバー(株)	東京都	スーパーサンケイエース(サプリメント)	バントエア・アグロメランス由来LPS (香川県の企業が製造)
	第05-0007号	(株)ベストフード	愛媛県	血圧ゼリー(サプリメント)	バリルチロシン (イワシ由来)
2020年度	第06-0008号	(株)アデランス	東京都	LPS免気エスコート(サプリメント)	バントエア・アグロメランス由来LPS (香川県の企業が製造)
	第07-0009号	赤穂化成(株)	兵庫県	志國の水、室戸の水、海の深層水 天海の水 硬度1000 (いずれも清涼飲料水)	海洋深層水ミネラル (高知県の事業所で製造)
	第07-0010号	(株)あさの	高知県	高知・生姜 あさの家 しょうが湯(粉末清涼飲料)	生姜加工物 (6-ジンゲロールと6-ショウガオールを含む)
2021年度	第08-0011号	(株)ル・シェール	東京都	ル・シェールプレミアムドリンクM&M(清涼飲料水)	バントエア・アグロメランス由来LPS (香川県の企業が製造)
	第08-0012号	池田薬草(株)	徳島県	スダチン錠／Sudachin®(スダチン)(サプリメント)	スダチ果皮エキスを末
2022年度	第10-0013号	(株)ふじや	徳島県	大豆ミートとすだちの餃子(一般加工食品)	スダチ果皮エキスを末
2024年度	第12-0014号	健康屋本店(有)	愛媛県	アクトファージ(サプリメント)	バントエア・アグロメランス由来LPS
2025年度	第16-0015号	ペレ・グレイス(株)	東京都	インナーグレイス・スキリエクサー・プラス(サプリメント)	バントエア・アグロメランス由来LPS (香川県の企業が製造)

(※) 食品あるいは食品の原材料となる素材のうち、健康でいられる体づくりに関する科学的な研究が行われたものをいいます。

(2026年5月末日時点)

②令和8年度 CNFを活用した新事業の創出支援の概要

四国は、全国的にも紙関連の産業が集積しており、これらの産業界では、紙の製造技術を活かせる次世代素材のセルロースナノファイバー（CNF）が注目されています。

CNFは、自然由来材料から製造されかつ、板材に強度を付加する、液体の粘度を可變的に調整するなど、素材に多様な機能を付加することができ、自動車部品、建材、化粧品、食品分野など、多様な方面への利活用が期待されています。

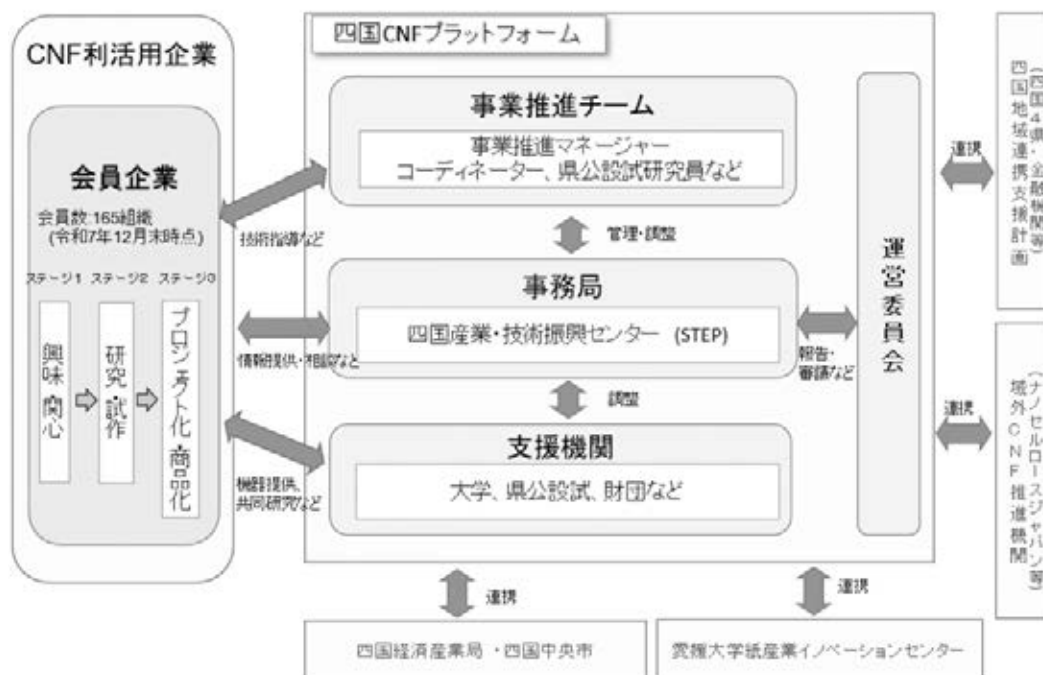
ここ数年、多方面でCNFの利活用事例が出始めており、昨年度には大王製紙(株)がCNF樹脂ペレットの商用製造設備を稼働させるなど、CNFの社会実装が定着する重要な時期にさしかかっています。

また、今年度より、四国中央市に「新素材探求室 CNF普及支援係」が、愛媛大学に「しこちゅ〜コモンズ」という紙マテリアル創出拠点が新設され、支援体制の充実も広がっております。

当センターでは、四国経済産業局と平成28年に設立した「四国CNFプラットフォーム」(運営委員長:愛媛大学内村浩美教授、事務局:当センター、会員企業等165組織 @R7.3E)をベースに、四国4県の公設試験所等と協力しながら、CNFを活用して自社製品の付加価値化に取り組む企業を支援する活動に取り組んでおり、CNFの確実な社会実装を目指しています。

令和8年度は、対象を「CNFを中心としたバイオマス素材」に広げつつ、企業訪問、セミナー開催等による「取組企業の発掘」や、製品開発案件に対するコーディネーター、専門家の技術指導等による「製品開発支援」、開発品をアピールする「展示会開催」などを実施し、支援先企業の「新しい事業の柱」に育つよう支援する計画です。

事業名	概要
CNFを活用した製品の開発支援	・ CNF利活用に取り組む企業にコーディネーターや専門家が訪問し、伴走型で技術課題解決や企業間連携などの開発支援を行うことで製品化につなげる。 ・ 「四国CNFプラットフォーム」をベースに、各支援情報を「CNF事業推進会議」で連携しながら支援。
企業訪問・普及啓蒙活動	・ コーディネーター等が企業を訪問し対話するなかで、四国の素材産業発展にとって有望な開発テーマ、取組企業を発掘する。 ・ 企業訪問時には、「CNF利活用検討ヒント集」等を活用し、企業ニーズをより具体的に引き出す。
四国セルロースナノファイバー展示会&CNF実用化事例紹介セミナー	・ 四国でCNFに取り組む企業、CNFメーカー、支援機関等が、それぞれの取組みを展示・PRする展示会を開催。 ・ 同時に、製品を開発した企業等の方々から、経験談等を紹介いただくことにより、企業の取組意欲を高めるためのセミナーを開催。
CNF体験セミナー	・ 実習等でCNFの取扱いを体験していただき、CNFの取扱いのコツをつかんでいただくセミナーを開催。



(四国CNFプラットフォームの体制)



(四国CNFプラットフォームの事業構成)



(製品開発の支援体制)



(CNF利活用検討ヒント集)



(四国セルロースナノファイバー展示会 R7年度)

③「四国健康支援食品普及促進協議会」令和7年度総会の開催 ～ 役員選出、令和8年度事業計画案に関する審議など ～

四国健康支援食品普及促進協議会（事務局：当センター）は、3月26日、高松市にて令和7年度総会をオンライン併用で開催しました。（会員総数47会員のうち、オンライン出席も含め20会員が出席、欠席会員からは議決権行使書を受領）

総会では、会長・副会長・顧問・監事の選出に続いて、令和7年度の事業実施報告や決算報告、剰余金繰越ならびに令和8年度事業計画について事務局より説明が行われ、全て原案どおり承認されました。

【令和8年度 会長・副会長・顧問・監事】

（敬称略）

役職	氏名	所属・役職
会長	辻田 純二	株式会社中温 常務取締役
副会長	茂島 克裕	仙味エキス株式会社 代表取締役社長
	河内 千恵	自然免疫応用技研株式会社 代表取締役社長
	鍵政 俊夫	池田薬草株式会社 代表取締役社長
	小松 静雄	室戸海洋深層水株式会社 代表取締役社長
顧問	杉 源一郎	自然免疫制御技術研究組合 代表理事
	菅原 卓也	愛媛大学農学部 教授
監事	板井 紀康	ヤマキ株式会社 商品開発部長

総会終了後、島村 智子氏（高知大学農林海洋科学部教授）から「高知県大豊町の後発酵茶「碁石茶」 ～その歴史と産学官連携研究の歩み～」と題してご講演いただきました。続いて、山領 佐津紀氏（ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社事業開発部部长）から「素材の「強み」を見える化する ～機能性素材開発のワンストップ支援サービス～」について情報提供していただきました。

最後に、本協議会では、令和8年度事業計画を着実に実施するとともに、本制度の普及拡大、認証食品の増加・販路拡大に向けて、本協議会会員のご支援・ご協力をお願いして閉会となりました。



辻田会長 挨拶



高知大学 島村氏 講演



ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ
山領氏 情報提供

3 販路・用途開拓の支援

①令和8年度 マッチングサイト「ヘルシー四国」活用による販路開拓支援の概要

四国の特徴を活かした機能性食品を含む付加価値のある食品素材・商品の創出を促し、その販路開拓を支援するため、令和3年度に当センターがマッチングサイト「四国発!ヘルシー食品&素材マッチングウェブ(ヘルシー四国)」を構築しました。

令和8年度は、昨年に引き続き、本マッチングサイトの充実を図るとともに、本サイトを有効活用した販路開拓支援を強力に推進します。

事業名	概要
マッチングサイトの活用による販路拡大支援	○主に企業間取引(BtoB)を指向する食品素材・商品及び資機材等の製造企業の販路開拓・商品開発支援 ○マッチングサイト登録企業の販路拡大・商品開発を目的とした展示会出展支援 ○デジタルマーケティングに意欲のある企業を対象に、公的資格「ウェブ解析士」を有する専門家を派遣するなど、効率的なリスティング広告出稿などのハンズオン支援を行う。 など

本サイトの構築コンセプト

CONCEPT 1	CONCEPT 2	CONCEPT 3
企業の皆さんが簡単に利用できること 本サイト掲載の「ウェブサイトご利用条件」をご覧ください	企業や製品の情報を様々な方法で見つけられること	登録企業へのコンタクトが容易に行えること
無料で利用できる	四国を中心とした食品素材・加工メーカー等が素材や商品の特長などの情報を、訴求力が高い動画を利用して積極的に掲載することで、BtoBマーケティングを意識したバイヤー等への情報提供が効率的に行える 属性やキーワードによる高度な検索ができる	システム上で登録企業へマッチングリクエストを送ることができる
簡単に、企業・商品が登録ができる 閲覧会員登録すれば限定公開情報(展示会のみでしか入手できないFCPシートなど)が閲覧できる	四国における特徴ある食品の全国への紹介サイトとして、通年で活用できる 地理的・時間的な制約の解消	イベント開催スケジュールと連携しリアル商談を効率的、効果的に行うことができる

○アクセス方法

① URL入力

URL : <https://www.healthy-shikoku.jp/>

② 検索サイトで検索

ヘルシー四国

検索

③ QRコード



②四国健康食品普及促進協議会が第31回ifia/HFE JAPAN2026に出展

四国健康支援食品普及促進協議会(事務局:当センター)は、「四国健康支援食品制度(愛称:ヘルシー・フォー)」の普及広報および本制度認証食品・機能性素材の販路開拓などを目的として、「第31回ifia/HFE JAPAN2026(※1)」の「機能性表示食品開発パビリオン」に「食品機能性地方連絡会(※2)」との連携事業として、「北海道食品機能性表示制度(愛称:ヘルシーD o)」や「沖縄県健康食品ブランド(ウェルネスオキナワジャパン)」などと共同出展し、期間中、ブースにおいて本制度および認証食品・機能性素材を紹介しました。

協議会では、今後とも展示会やセミナーの機会を捉え、本制度と認証食品・機能性素材の普及広報・販路拡大に努めてまいります。

●開催概要

【期 間】 2026年5月27日(水)～29日(金)

【会 場】 東京ビッグサイト西ホール1・2

【来場者】 27日:9,113名、28日10,962名、29日11,021名
合計:31,096名

(出典)ifia/HFE JAPAN事務局



ブース展示



会場の様子

(※1) ifia/HFE JAPAN2026(国際食品素材/添加物展・会議)

食品原料・素材関連企業と食品メーカー開発関係者とのビジネスマッチングの場として、株式会社食品化学新聞社の主催で開催されている展示会

(※2) 食品機能性地方連絡会

「健康寿命の延伸」、「地方発食品産業の振興」、「食品機能性表示における情報と課題の共有」を目的として2013年11月に設立された組織で、食品の機能性に関して問題意識を持つ地方公共団体ならびに経済団体などが年数回集まり、食品機能性に関する情報共有のほか、政府や関係省庁に対して食品機能性に関する要望のとりまとめなどを行っている。(当センターは発足当時から参画)



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助を受けて実施しました。
<https://www.jka-cycle.jp/>

ヘルシー食品&素材マッチングウェブ【ヘルシー四国】 ご登録企業の紹介

当センターが運営しておりますマッチングサイト「四国発!ヘルシー食品&素材マッチングウェブ【ヘルシー四国】」にご登録いただいている企業様を紹介いたします。



これから、ルテインは卵で摂る時代に。
有限会社 高島産業

○所在地：香川県高松市香川町川東上379番地

TEL:087-879-2055

企業ウェブサイト <https://www.t-egg.com>

○事業内容：鶏卵の生産販売

有機肥料の生産販売

○企業理念：食文化を通して、お客様、地域社会に貢献します

○農場理念：鶏に最善のものを与えよ

○企業PR：2026年4月8日をもちまして、有限会社高島産業は創業104年を迎えました。

私たちはこれまで一貫して、「卵の価値とは何か」を問い続けてまいりました。

その一つの答えとして誕生したのが、目に良い卵「あらん」です。

「あらん」は、創業100周年という節目に、これまで培ってきた知恵と経験、そして“これからの食”への想いを込めて自社で研究、開発した卵です。

日々の食事の中で自然に取り入れられ、皆様の健やかな毎日を支える存在でありたい——

その想いを形にしました。

「あらん」が、食卓に新たな価値をもたらし、健康と豊かさに貢献できる存在であり続けること。

それが私たちの使命です。

○ヘルシー四国掲載商品

・高ルテイン含有卵「あらん」

「あらん」は、日本初（※自社調べ）の“ルテイン”を機能性関与成分としたたまごの機能性表示食品（H85）です。

特許取得の専用飼料により、一般的な卵の約10倍のルテインを含有。ルテインは、デジタル機器と共に生活する現代人の“目の健康”を支える成分として注目されています。

中でも「あらん」は、他の生鮮食品やサプリメントと比較しても吸収率が良いとされる“たまご由来のルテイン”を、毎日の食事からおいしく摂取できることが特長です。生鮮食品から効率よくルテインを摂取できる、唯一無二の食品であると自負しています。

また、加熱すると黄身の色がより濃く鮮やかに発色し、料理を美味しく彩ります。白玉卵ならではのクセが少なく上品な味わいも評価され、「美味アワード2025」認定商品にも選ばれました。

現在、各種メディアからも注目を集めている、高島産業イチ押しのたまごです。

【高島産業ページ】<https://www.healthy-shikoku.jp/coms/view/1088>



参考小売価格/360円(税別)・税込

機能性表示食品 届出番号 H85

特許出願中 特願 2023-171787



4 その他の事業

①令和8年度定例理事会・定時評議員会開催

四国産業・技術振興センターは、令和8年度の定例理事会、定時評議員会を開催しました。

定例理事会は6月3日、サンポートホール高松において、理事総数13名中11名の出席および監事2名の出席により開催し、令和7年度の事業報告、決算および公益目的支出計画実施報告書について承認しました。このほか、JKA補助事業の実施、定時評議員会の招集について承認しました。

定時評議員会は6月19日、サンポートホール高松において、評議員総数15名中13名（うちWEBでの参加2名）の出席および理事2名の出席により開催し、令和7年度決算等の承認のほか、理事の選任を決議しました。

令和8年度 定例理事会

1. 日 時：令和8年6月3日（水）13時00分～14時00分
2. 場 所：サンポートホール高松 55会議室
3. 出 席：理事11名、監事2名
4. 議 事：第1号議案 令和7年度事業報告について
第2号議案 令和7年度決算の承認について
第3号議案 令和7年度公益目的支出計画実施報告書の承認について
第4号議案 令和8年度（公財）JKA補助事業の実施について
第5号議案 定時評議員会の招集について

令和8年度 定時評議員会

1. 日 時：令和8年6月19日（金）13時00分～14時00分
2. 場 所：サンポートホール高松 55会議室
3. 出 席：評議員13名、理事2名
4. 議 事：第1号議案 令和7年度事業報告について
第2号議案 令和7年度決算の承認について
第3号議案 令和7年度公益目的支出計画実施報告書の承認について
第4号議案 令和8年度（公財）JKA補助事業の実施について
第5号議案 理事の選任について

承認された令和7年度決算

貸借対照表 (令和8年3月31日現在)

(単位:百万円)

	令和7年度	令和6年度	増 減
資 産	532	548	△15
負 債	10	11	△1
正味財産	522	536	△13

(注) 金額は、百万円未満切捨てで表示している。

損益計算書 (正味財産増減計算書)

(単位:百万円)

	令和7年度	令和6年度
収 益	82	126
費 用	96	137
正味財産増減額	△13	△10

(注) 金額は、百万円未満切捨てで表示している。



②イノベーション四国 令和8年度上期 IC・支援機関連絡会開催

イノベーション四国では、事務局の当センターと副事務局の産業技術総合研究所、中小企業基盤整備機構の3者の他、四国経済産業局、一部会場では新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の参加のもと、5月13日～6月16日の間で四国内4地域を巡回し、各地区のイノベーションコーディネーター(IC)および支援機関の方々との連絡会を開催し、当該年度の活動計画の周知・協力依頼と関係者からの意見や情報の収集を行いました。

連絡会は、事務局からの単なる周知や報告だけでなく参加者との双方向の会議や議論の場を設けることとし、1部は事務局等からの周知、2部は双方向の討議の場としました。

冒頭、東野運営委員長より「イラン情勢など不透明な状況がある中、四国の中小企業においては厳しい状況が続いていると思いますが、そのような中でも、補助金の採択に関しては沢山の有望な企業さまからの応募が届いており、技術開発に関する意欲が旺盛な状況は続いている感触を持っております。引き続き、ご出席の皆さまには補助金や顕彰事業に対する有望企業の積極的な推薦をお願いします。」との挨拶がありました。

1部では各所からは、以下の説明がありました。

- 【STEP】 STEP独自の補助事業の募集、四国産業技術大賞の募集等
- 【産総研】 産総研四国センターの活動概要、先進ヘルスケア、四国工業研究会の活動等
- 【中小機構】 中小機構の取組紹介(IT化支援、カーボンニュートラル支援)
- 【四経局】 フードテック、フードイノベーションの取り組みと情報提供の依頼
- 【NEDO】 分野横断的研究開発支援の紹介

2部では事務局からCNFの最新情報やフードテック関連情報を提供し、それをもとに話題を広げて参加者で意見交換や質疑応答を実施しました。各支援機関からトピックスを紹介いただくとともに千葉統括ICから企業支援についての心得などの説明がありました。

連絡会全般を通して、IC・支援機関の企業支援活動についての自由活発な議論がなされた有益な会合となりました。また、4会場全てで懇親会を開催し、連絡会初参加の方も含めて、企業支援に関する共通話題などで大いに盛り上がりました。

今後もIC・支援機関との連携促進を図り、より実効性のある企業支援を行っていきたいと思います。なお、下期にも4県を巡回して連絡会を開催する予定です。

会場	開催日	場所
高松	5月13日(水)	高松センタービル
徳島	6月 1日(月)	あわぎんホール
高知	6月 9日(火)	高知県立県民文化ホール
松山	6月16日(火)	松山二番町ホール

時 間	議 題	説 明 者 等
14:00-14:05 (5分)	事務局挨拶	東野運営委員長
第 1 部		
14:05-15:05 (60分)	8年度の事務局の活動 (STEP、産総研、中小機構)	STEP (30分)、産総研 (15分)、 中小機構 (15分)
15:05-15:15 (10分)	経済産業省関連支援施策について	四国経済産業局 (10分)
15:15-15:35 (20分)	NEDO分野横断的公募事業の紹介	NEDO (20分)
15:35-15:45 (10分)	(休 憩)	
第 2 部		
15:45-16:30 (45分)	・ CNF、フードテックの取組状況等の報告 ・ IC活動状況について ・ 支援機関の活動状況・トピックス等について ・ 意見交換、情報交換	CNF (5分)、フードテック (5分) IC (25分) 支援機関 (10分)

議事次第



東野運営委員長挨拶(高松)



高松会場



徳島会場



高知会場



松山会場



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助を受けて実施しました。
<https://www.jka-cycle.jp/>

③全国地域技術センター連絡協議会 事務連絡会

全国地域技術センター連絡協議会の事務連絡会が開催されました。同連絡会は、当センターと同様の技術支援活動を各地域で実施しているセンター10団体の連絡会で大阪科学技術センターが事務局をしています。

連絡会では各団体の事業トピックスや各団体からの課題について意見交換しました。当センターからは東野専務理事が令和8年度の活動内容を紹介しました。また個別テーマとして基本財産の運用、Go-Tech事業の新規案件発掘および賛助会員発掘について意見交換しました。

翌日には、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構のナノテラス（3GeV高輝度放射光施設）を視察しました。

【開催月日】 令和8年4月23日、24日

【場 所】 仙台市

【議 題】 1.各所からの令和8年度事業トピックス
2.個別テーマについてのディスカッション

【参加機関】 北海道科学技術総合振興センター、東北活性化研究センター、北陸産業活性化センター、中部科学技術センター、名古屋産業技術研究所、大阪科学技術センター、中国地域創造研究センター、四国産業・技術振興センター、九州オープンイノベーションセンター、南西地域産業活性化センター



3GeV高輝度放射光施設 NanoTerasu



3GeV高輝度放射光施設NanoTerasuは、1メートルの10億分の1というナノの世界を観察することができる世界最高水準の先端大型研究施設です。NanoTerasuは、電子を加速器によりほぼ光の速さまで加速し、太陽光の約10億倍にも及ぶとても明るい放射光というX線を発生させ、これを物質に照らすことにより観察を行います。このような観察を通じて、基礎科学はもちろんのこと、エネルギー、材料、デバイス、バイオ、食品など様々な産業領域において幅広く利用され、科学とイノベーションの両面を支えます。

NanoTerasuという名称は、ナノ (Nano) の世界を明るく照らす (Terasu) という施設の特徴を表しており、日本神話にある世の中を照らす天照大御神 (あまてらすおおみかみ) のように、この施設で行われる研究やそこから生まれた成果が、世界の学術や産業に豊かな実りをもたらして欲しいという願いを込めて名付けられました。

NanoTerasuは、施設設置者であり国の主体である国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構に加え、地域パートナーの代表機関である一般財団法人光科学イノベーションセンターと共用促進法に基づく利用促進業務を行う公益財団法人高輝度光科学研究センターの参画を得て運営しており、宮城県仙台市の東北大学青葉山新キャンパスにあります。

④「第二期四国地域連携支援計画（高機能素材関連分野）全体会合」の開催

第二期四国地域連携支援計画(高機能素材関連分野)」の代表機関を担っている当センターでは、参画する24支援機関を集め全体会合を開催しました。

第一部では、同計画の前年度支援実績、当該年度支援計画等に関する情報交換を、第二部では、紙マテリアルの開発拠点として期待される「しこちゅ〜コモンズ」に関する講演と、設備見学を実施しました。

【日 時】 令和8年6月2日 13時30分～16時30分

【場 所】 愛媛大学紙産業イノベーションセンター しこちゅ〜コモンズ研修室(四国中央市)

【出 席】 一部 32名、二部 37名(四国4県庁・公設試・財団、産業技術研究所、6銀行等、
第二部では四国CNFプラットフォーム運営委員等も参加)

【第一部 連携支援計画の全体会合】

事務局から、第二期計画実施内容の意識合わせと、6月末に経済産業大臣に提出する令和7年度の実施状況報告書の案について説明し、了解された。

続いて各県庁・公設試・財団、当センター等から8年度の活動方針について紹介があり、これからの連携支援活動に向け、関係者間で情報共有を図った。



【第二部 愛媛大学紙産業イノベーションセンター しこちゅ〜コモンズの紹介】

「愛媛大学におけるCNFに関する研究開発の取組みとしこちゅ〜コモンズでの展開」と題し、愛媛大学 内村浩美特別栄誉教授より、CNF開発の意義やこれまでの開発実績、経済産業省Jイノプラ3で整備した「しこちゅ〜コモンズ」と連携する今後の展開等について、講演いただいた。

その後、3班に分かれ、「しこちゅ〜コモンズ」の素材開発に使う試験設備等を見学した。

参加者からは、「技術開発の最前線を実感することができた」等のコメントをいただきました。



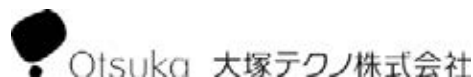
競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助を受けて実施しました。

<https://www.jka-cycle.jp/>

大塚テクノ株式会社

- 設 立：1985年12月
○資 本 金：4,000万円
○代 表 者：代表取締役社長 日下 健一
○本 社：徳島県鳴門市瀬戸町明神字板屋島120-1
TEL：088-683-7111
URL：https://www.otsuka-techno.co.jp
○事 業 内 容：合成樹脂製品の製造、販売



- 企 業 P R： 徳島発祥のモノづくり企業である大塚テクノ株式会社は、1985年の設立以来、大塚グループの一員として成長を続けてきました。

医療用プラスチック部材の生産からスタートし、長年培った高度な成形技術と厳格な衛生管理ノウハウを強みに、医療製品と精密製品という二軸の事業領域を確立しています。

医療製品分野においては、輸液用バッグのフィルムや薬剤吸入デバイスなど各種プラスチック製品を提供し、一方の精密製品分野では、スーパーエンジニアリングプラスチックを活用した高付加価値製品や、プラスチックと金属の複合成形製品からなる超小型サーマルプロテクターを自社ブランドとして展開しています。なお、この超小型サーマルプロテクターは第30回四国産業技術大賞にて最高賞にあたる産業技術大賞を受賞しており、その技術的成果が高く評価されました。

大塚グループ創業から受け継ぐ「実証」の精神、そして創造性のDNAを大切に、モノづくりへ挑戦してきました。

今後は、医療・健康領域の課題に向き合いながら、新しい価値創造とイノベーションに注力し、徳島を拠点に、世界へ技術・製品を届けるグローバル展開にも積極的に取り組んでまいります。

輸液関連製品(ポート、フィルム)



微細藻類培養装置 OT-Algae



超小型サーマルプロテクター



四国計測工業株式会社（香川県多度津町）

■事業概要

当社は、四国電力グループの一員として、電力供給システム全般のサービスや計測・制御を中心とするエレクトロニクス技術を不変の核として事業領域を拡大してきました。現在は、発電所や電力輸送に関わる計測・制御装置の製造・保守など電力供給システム全般で幅広く製品・サービスを提供するとともに、発電や電力供給などで蓄積してきた技術とノウハウを活かし、医療、食品、LEDなど多岐にわたる分野において、新しい取り組みにチャレンジしています。このうち、メカトロ・画像処理技術を応用したワクチン製造に使用する卵を検査する「自動検卵機」、細胞培養を省力化する「多層培養器反転装置」およびレトルト食品のシール不良を検査する「ヒートシール検査装置」については、国内にとどまらず海外への販売も積極的に進めています。



自動検卵機



多層培養器反転装置



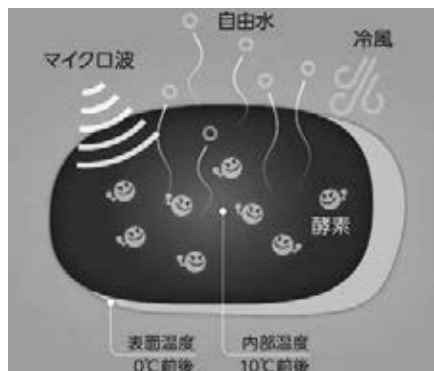
ヒートシール検査装置

■Umamié

うまみ増進機Umamié（ウマミエ）は、弊社が約40年前より培ってきた研究用マイクロ波製品の技術を食の分野に応用し、マイクロ波により食材内部を加熱しながら、同時に冷却機能により食材表面は冷却することで本来必要とする時間を飛び越え短時間で食材本来のうま味を増進させる革新的厨房機器です。これまで不可能であった「鮮度の維持」と「じっくり寝かせたうま味」の共存を実現させました。

＜短時間でうま味が増えるわけ＞

Umamiéは「うまみ増進」「水分量の調整」「短時間処理」の3つの効果で様々な食材に対して革新的な味の変化をもたらします。食材の内部温度を上げることで酵素が活性化し、たんぱく質からアミノ酸への分解が進みうま味を増進させます。また食材表面を冷却することで雑菌の繁殖や腐敗リスクを下げ、鮮度を維持。また、食材表面と内部の温度勾配で圧力差が発生することにより食材に含まれる余分な水分を抜く。これらすべてを短時間で処理することが可能です。



「Umamié」原理のイメージ

マイクロ波：食材内部を加熱 → 酵素活性化
冷風：食材表面を冷却 → 鮮度維持
マイクロ波＋冷風：自由水（余分な水分）の除去



<拡がる可能性>



通常2週間から数か月かかる牛肉の熟成をわずか数日間で実現、肉本来のうま味が際立ちます



余分な水分を抜くことで魚の鮮度はそのままに、数時間から半日であま味を凝縮します

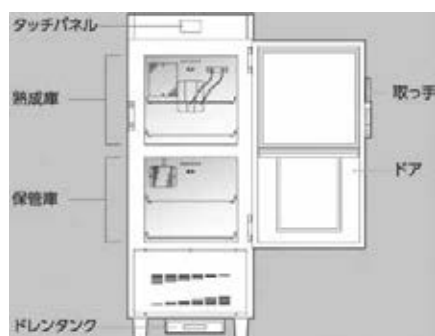


若いチーズでも装置で1週間程度寝かすことで塩味がまろやかになり濃厚な味わいになります



わずか数日間で色鮮やかなま味が凝縮した氷温ドライフルーツになります

<製品仕様>



電源	AC100V/650W
マイクロ波出力	50W未満
操作部	4.3インチタッチパネル
温度	熟成庫:熟成温度0℃～25℃、 庫内温度:-5℃～10℃
	保管庫:庫内温度0℃～10℃
風量	弱/中/強
外寸	幅610×奥650×高1600mm

■Quad K Beer

Umamiéの新たな可能性を追求する中で、「ビールの原料であるホップを熟成するとどうなるのか?」との弊社社員のアイデアから生まれたクラフトビールブランドです。Umamiéで処理を施すことにより、ホップの苦み成分が低減し、まろやかな味わいを表現しています。また香川県を始めとした地元産農産物を副原料に使用したビールを企画・販売することで、地域の賑わいづくりや地元産業の活性化にも貢献しています。



【kokou】

坂出市の小原紅早生みかんを使用したフルーツラガー「kokou」(ココウ)は、ビール審査会「インターナショナル・ビアカップ2025」のケグ部門フルーツビアスタイルで金賞を受賞。Umamiéで処理したまろやかホップをベースに柑橘系ホップを2種類加えることで、みかんとの相性を高めた爽やかな飲み口のビールとなっています。

《会社概要》

会社名: 四国計測工業株式会社
代表者: 代表取締役社長 渡邊 浩
設立: 1951年12月
資本金: 4億8,000万円

従業員数: 809名(2026年3月現在)
本社: 香川県仲多度郡多度津町南鴨200番地1
事業拠点: 高松、善通寺、坂出、阿南、西条、松山、伊方、東京
URL: <https://www.yonkei.co.jp/>

独立行政法人国際協力機構四国センター（香川県高松市）

－ 四国の企業の力を、世界の課題解決へ －

1. 国際協力機構四国センター（JICA 四国）とは

四国における「国際協力の拠点」であり、「企業連携のパートナー」

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、日本の政府開発援助（ODA）の実施機関として、開発途上国が直面する様々な社会課題の解決に取り組んでいます。JICA 四国は、その国内拠点として、徳島・香川・愛媛・高知の4県を担当し、JICA 海外協力隊の募集、途上国からの研修員受け入れや、四国の官民団体・大学等とともに途上国で行う事業の形成・実施といった国際協力を通じ、途上国と四国地域をつなぐ役割を担っています。

JICA 四国の事業の柱の一つに、民間連携事業があります。四国の企業が持つ優れた技術、製品、ノウハウを、開発途上国の社会課題解決に活かしながら、企業自身の海外展開や人材育成、技術高度化にも結び付けていく。JICA 四国は、民間企業との連携を通じた「共創型の国際協力」によって、世界と地域の双方向の価値の創出を支援しています。

2. 企業とJICA 四国が連携する意義

世界の課題は、四国企業のビジネスチャンスにもなる

気候変動、防災、インフラ老朽化、水資源、農業、医療、食品安全等、途上国が抱える課題の多くは、四国の企業がこれまで培ってきた技術や経験が活かせる分野です。

JICA は世界 96 カ国に海外拠点を有し、途上国・新興国市場に対して、次のような強みを活かしながら支援を行っています。

- ・ 途上国政府とのネットワーク・信頼関係
- ・ 現地ニーズに基づく案件形成力
- ・ 事業実証や制度設計まで含む伴走支援
- ・ 技術協力や資金協力等、他の ODA 事業との連携による事業効果・付加価値の拡大

3. 四国企業の海外展開を支える

「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」(JICA Biz)

JICA 四国が民間連携事業の中核として位置づけているのが「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」(JICA Biz) です。この制度は、四国企業が有する技術・製品を、開発途上国の課題解決に活用することで、

- ・ 途上国の経済・社会課題の解決
- ・ 企業の海外展開・新規市場開拓
- ・ 途上国・日本国内双方の地域経済の活性化

を同時に目指す取り組みです。

年に1回、以下の2つの事業の募集を行っており、例年8月20日頃までにJICA四国と事業内容を相談いただいたうえで応募いただいています。

- ・ ニーズ確認調査

目的：ビジネスモデルの検証、期間：上限 12 カ月、調査経費：上限 1,500 万円

- ・ ビジネス化実証事業

目的：事業計画の策定、期間：上限 2 年 6 カ月、調査経費：上限 4,000 万円

◆ 四国の実績 (2025年1月現在)

- ・ 四国内企業の採択件数：累計 62 件
- ・ 水道、インフラ、防災、農業、食品、製造業など幅広い分野で実績有り。事業終了後、途上国での代理店契約、ODA 事業での製品活用等に至った事例もあります。

■ 四国企業による中小企業・SDGsビジネス支援事業等を通じた現地調査の様子



▲株式会社愛亀：ウクライナでの舗装補修材に関する調査



▲株式会社川西水道機器：ケニアでの水道管継手実証



▲株式会社飯田鉄工：フィリピンでの「掴み機」実証

4.海外展開に向けたステップアップも支援

多様な支援メニュー

上記のような個別・具体的な海外事業の検討以外にも、JICAでは海外展開に関心のある企業に対する様々なメニューを用意しています。ご関心に応じ、ご活用ください。

- ・「**企業共創プラットフォームメールマガジン**」各種イベント・勉強会・スタディツアー情報、公示情報、企業様のネットワークづくり、海外展開等に関する情報を定期的にお送りします。
- ・「**日本人材開発センター**」東南アジア、東アジア、中央アジア諸国に設置された JICA 協力の日本人材開発センターを通じ、ビジネス人材の育成や日本との交流を促進し、途上国における現地人材の育成・確保を支援します。
- ・「**PARTNER 国際協力キャリア総合情報サイト**」本サイトを活用し、海外経験や高度な専門性を有する人材を確保することが可能です。
- ・「**JICA 海外協力隊(連携派遣)**」将来の海外展開を見据え、社員を協力隊員として途上国に派遣することで、言語・文化・商習慣への理解を深め、市場ニーズの把握や人的ネットワークの構築を図ります。
- ・「**協力隊経験者の採用**」異文化環境で培った行動力やコミュニケーション力、粘り強さ等を備えた協力隊経験者は、年間 1,000 人以上が帰国しています。組織の活性化やグローバル事業を支える即戦力人材として評価されています。

5.JICA四国は「途上国と四国をつなぐパートナー」

国際協力やビジネス海外展開は、特別な企業だけのものではありません。

JICA四国では、「当社の技術・製品は海外で使えるのか」「途上国の環境分野の課題やビジネスニーズを教えてください」といった初期的なご相談から、途上国での課題解決と海外ビジネスの両立に向けた具体的な事業内容を企業と一緒に検討します。

企業、自治体、大学、NGOなど多様な主体とともに、共創による途上国と四国地域の未来づくりに貢献していきます。

《組織概要》

組 織 名：独立行政法人国際協力機構（JICA）四国センター

所 在 地：〒760-0028 香川県高松市鍛冶屋町3番地香川三友ビル1階

T E L：087-821-8824（代表）

E-mail：jicaskic@jica.go.jp（代表）

U R L：<https://www.jica.go.jp/shikoku/>

https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/index.html

JKAのWEBサイトに当センターの活動が掲載されました

当センターは、JKA補助事業（機械振興補助事業ものづくり支援）を活用していますが、このたびJKA広報からJKAの補助金がどのように活用されているかWEBサイトに掲載したいとの依頼があり、理事長はじめ関係者が取材を受けました。

当センターの事業内容や企業支援の目的などが凝縮された内容となっております。

JKAのWEBサイト掲載内容は以下のとおりです。(https://www.jka-cycle.jp/)



オール四国で産業を元気に。 四国産業・技術振興センターが育むつながり

四国では紙・パルプ産業を中心に、優れた技術力を持つ中小企業が数多く存在しています。ただ、技術力に反して知名度が低く、販路を拡大できないなどの課題も顕著です。そんな四国の中小企業をサポートしている団体が、一般財団法人 四国産業・技術振興センター（通称STEP）。今回はSTEPの活動内容や、とくに力を入れている分野など、さまざまな話を伺いました。

◆県単位にとどまらない産業の活性化を

最初にお話を伺ったのはSTEPの理事長を務める池澤さん。STEP設立の目的などを教えていただきました。

池澤さん：「当センターは1984年に設立され、四国における産業・技術の振興や、地域経済の発展に貢献する

ことを目的に活動しています。設立当初より賛助会員の皆さまや省庁、競輪とオートレースの補助事業などのご支援をいただきながら、中小企業の技術開発や研究開発、販路開拓のサポートを行っています」



つながりこそがSTEPの強みと語る池澤理事長（当時）

また、STEPの特長として、幅広い機関や人々とのつながりがあるそうです。

池澤さん：「STEPは“イノベーション四国”と呼ばれる、四国における試験研究機関、産業支援機関、大学・高専、金融機関といった計48機関からなる広域ネットワークの事務局を務めています。また、当センターの職員だけでなく、イノベーションコーディネーターと呼ばれる高い専門知識を持つ方々にも業務を委嘱することも特長です。さまざまな機関や人とのつながりをもって企業を支援することで、県を跨いだ支援や企業同士のコラボレーションを生み、オール四国で地域を元気にすることを目指しています」

◆セルロースナノファイバーの可能性を もっと広めたい

STEP職員の渡さんと鈴木さんからは、四国の産業における課題やポテンシャル、STEPがとくに力を入れているセルロースナノファイバー（CNF）という素材について、詳しく聞くことができました。

渡さん：「四国の産業は人口減少や過疎化などによって縮小傾向にあるものの、ニッチトップ企業が多いという特長があります。2013年と2020年の経済産業省『グローバルニッチ企業100選』でも、12企業が四国から選ばれました。加えて、紙・パルプ産業といった四国を代表する産業も健在です。まだまだポテンシャルを秘めた地域だと、私たちは信じています」



普段は総務企画を担当する渡さん

鈴木さん：「CNFは、今話に出た紙・パルプ産業の先端

技術として期待され、STEPが積極的に支援している素材です。木材などの主成分であるセルロースを非常に細かく解きほぐした物質で、たとえば漆喰に混ぜ込むことで微小なひび割れを防いだり、プラスチックに混ぜ込むと強度が上がったり……さまざまな活用方法がある上、自然由来なので環境にもやさしいんですよ」



セルロースナノファイバーの活用を担当する鈴木さん

渡さん：「CNFには大きな可能性があるのですが、まだその力を活かしきれていない状況です。そこでSTEPでは『CNF利活用検討ヒント集』というパンフレットを制作したり、大規模な展示会に出展するなど広報活動を行い、企業さまに“うちならこんな使い方ができるかもしれない”と、発想のきっかけにさせていただいているんです。その活動においても競輪とオートレースの補助事業を活用させていただいて、とても助かっています」

鈴木さん：「そうですね。まずは素材自体や可能性を知ってもらうことが重要なので、サポートは非常にありがたいです。引き続き具体的な実用化やプロジェクト化を目指していくので、ご期待いただければうれしいです」

◆つながりこそが、イノベーションを芽ぶかせる

STEP職員とともに四国の産業を支えているのが、イノベーションコーディネーター（IC）です。鈴木さん、兵頭さん、千葉さんはそれぞれ県職員や電力会社などバックグラウンドは異なるものの、一つの志をもとにお仕事と向き合っていました。



ICとして活躍する兵頭さん（写真左）、鈴木さん（写真中央）、千葉さん（写真右）

兵頭さん：「ICには専門知識を活かしてサポートする方もいますが、主な仕事は自分のキャリアや人脈を活かして、人と人をつなげることです。そのためには、まずご相談いただいた企業との関係をきちんと構築することが大切。たとえば社長にいきなり“課題を教えてください”と言っても、親密な関係がなければ本心は教えてもらえないですね」

鈴木さん：「そうそう。そうやって課題を知った上で、解決に必要な知識や技術を持っているキーマンをつなげるんです」

千葉さん：「あとは人をつなげました、で終わりにするのではなく、製品化や販売までフォローアップできる人じゃないといけませんよね」

兵頭さん：「そうですね。そういったことを総合的にできる人が、ICだと私たちは思っています」

鈴木さん：「兵頭さんは、なにかこれまでの仕事で印象深いものはありますか」

兵頭さん：「『四国は紙国』というサイトの立ち上げですね。四国は紙・パルプ産業が有名なのですが、ペーパーレス化などの影響で昔に比べると減退傾向にあります。ただ、そこで何もしないのは……という話になって、2013年に販売や新製品の開発、販路拡大などを目的とした総合マッチングサイトとして立ち上がったのが『四国は紙国』です」

鈴木さん：「確かにあの仕事は印象深い。私や千葉さんも間接的に関わりましたが、一大プロジェクトでした」

千葉さん：「四国の紙・パルプ産業とひと口に言っても、企業ごとに製紙や加工など請け負う仕事や、和紙・洋紙など扱う紙の種類も違います。当然考え方や抱えている課題もバラバラ。まずは、どうやってそこをまとめるかが課題でしたよね」

鈴木さん：「大きなプロジェクトになると多種多様な人たちをつなぎ、まとめるために中心となる人物が必要です。『四国は紙国』立ち上げでは、愛媛大学の内村先生という方がキーマンとなって引っ張っていただきましたね。その方を中心に据えることができたからこそ、成功できたプロジェクトだったなと」

兵頭さん：「やっぱり人と人のつながりは大きいです。もちろん人間なので、合う・合わないはありますが、そこは私たちICが盛り上げなくてはと思っています」

千葉さん：「人と人との関係性を広げ、育てていくことでイノベーションの芽が生まれると思います。支援する私たちICもそういった芽が生まれそうなところを探しながら、時間をかけてサポートしていきたいです」



普段から交流があり、和気藹々と話していたお三方

技術だけでなく、人と人や、企業、学校、機関などのつながりをもってイノベーションを創出し、地域経済の活性化を目指していく。四国の産業を覗くと、そこには数えきれないほどの結びつきが存在し、互いに助け合いながら未来に向かう姿がありました。

ICの活動報告

イノベーション四国では、イノベーションコーディネーター（IC）としてさまざまな分野の専門家の方々に、企業のみなさまの課題解決に向けた活動を行っていただいています。

このコーナーでは、ICの方々の日々の支援の中から見えてくる気づき、支援に込めた思い、心に残ったエピソードなどを紹介します。

補助金制度

IC 青野 洋一

IC支援活動で受ける相談に、技術相談を始め研究、補助金に関する内容があります。その中でも、年度当初に最も多いのが補助金です。定期的に企業を訪問させていただきますと、将来の事業計画に纏わる話の中で導入したい装置を知ることがあります。事前に拝聴していれば、適切な補助金募集が出たときにお知らせすることができます。しかし、公募が始まってからご相談を受けても準備する資料が間に合わなかったり、制度の趣旨を十分理解せず要領に記載が無いことを良いことに勝手に解釈したりして不採択になる方も見受けられます。補助金制度が新規に始まると概ね5年ごとに制度を見直すまで続くことが多いので、募集時期に合わせて準備を進めておくことが肝要です。

一口に補助金といっても大きく分けて委託事業、補助事業、助成事業など、それぞれ目的が異なります。委託事業は全額経費を支給してくれますが、事業の成果は委託者に帰属するのが特長です。受託者が発明しても、特許は委託事業者の権利となります。助成事業は事業の報告が比較的簡単なのが特長ですが、助成金額が少なかったり、申請順に採択し予算がなくなり次第終了といったデメリットがあります。

補助金は過去に全額補助もありましたが、今では1/2や2/3などの様に一部補助がほとんどです。更に賃上げ条件で補助額、補助率が変わり、私たち紹介するICもどれが一番有利か、相談を受けた企業の内情が分からない状況では即答できない事例が増えています。そのことから補助金を考えている経営者には何パーセント賃上げた人の割合が何人いるかなど、細かい賃上げ率が分かる資料を手元に持っておくようにアドバイスしています。また、審査時に加点が付くパートナーシップ構築宣言や、愛媛ではひめbos認定企業を事前に取得することを勧めています。

ところで「補助金に税金がかかるから応募したことが無い」と思われ活用していない方へ一言。

税務上補助金は、利益(益金)とみなされ、所得税、法人税がかかるのが原則となっていることから、補助金全額に税金がかかる」と勘違いされているのでは無いでしょうか。

補助事業の大まかなタイムスケジュールは①申請、②交付決定、③完了報告、④検査及び補助額確定、⑤入金の流れになります(図1)。交付決定になると、公文書で決定通知書が届きます。その文書の日付で仕訳計上します(図2)。その後、完了報告を提出するまでに国庫補助金収入額分を消費(購入)すると、差し引き零となり利益(益金)は生じません。

ところが、問題は②～③の間に会社の期末決算日が入る場合です。決算日までに補助額を消化していないと、その残額が純利益に加算されます。来期は残額が損益(損金)となり前期と合わせた税金は差引零となるものの、利益となる期(前期)の軽減税率適用範囲を上回らないかに注意が必要です。また、キャッシュフローで見ると交付決定があったからといって現金が入るわけではありません。補助金はほとんどが一括後払いとなり、⑤入金まで運転資金(現金)を確保する必要があります。

事業経費が当初計画よりも少なくて済み、完了報告までに補助額を消化していない場合は、交付決定額がすでに決まっていることから補助額確定で国庫補助金収入を逆仕訳します。

最後に「補助金には消費税を除くとなっているから、消費税を入ると実質補助率は下がる」とか「備品は減価償却があるので、補助期間内に償却できる金額が1/6しか認められない」など、色々間違った疑問を耳にします。今回は、補助金の損益をタイムスケジュールにて説明させていただきましたが、他の疑問は別の機会にさせていただきます。



図1 タイムスケジュール

借方	金額	借方	金額
未収金	x,xxxx	国庫補助金収入	x,xxxx

図2 補助金受入時の仕訳

賛助会員入会のご案内

年会費

1口 3万円／年（何口でも結構です）

お問い合わせ先

STEP総務企画部までお問い合わせください。

TEL 087-851-7025 FAX 087-851-7027 E-mail step@tri-step.or.jp

一般財団法人四国産業・技術振興センター（STEP）は、昭和59年に四国地域の技術振興を図り、地域経済の発展に貢献することを目的に、民間有志の方々により設立された広域（四国地域全体）の産業支援機関です。

平成20年には、近年の企業活動の高度化・グローバル化に対応するため、四国内の研究機関や産業支援機関などに働きかけ、「四国地域イノベーション創出協議会（イノベーション四国）」を設立し、当センターを始め会員機関など四国の総力を挙げて企業の皆さまが抱える販路開拓や技術開発などの課題解決を支援しております。

これらの活動を発展させ、永続的なものとするためには、企業の皆さまからの要請と支持が不可欠であり、財源については、当センターの賛助会費等を充てておりますが、これについても皆さまのご理解とご協力が不可欠です。

つきましては、当センターの良き理解者、支持者として賛助会員に入会され、四国の経済発展に貢献して頂きますよう、何卒よろしくお願いいたします。

賛助会員特典

- ・技術開発について、プロジェクト計画立案から事業化までコーディネーター派遣による支援が受けられます。
- ・補助金応募申請について、コーディネーターによる支援が受けられます。
- ・当センターが対象とする展示会への出展費用の割引が受けられます。
- ・全国大の表彰制度に当センターの推薦が受けられるとともにコーディネーターによる申請支援が受けられます。
- ・賛助会員交流会に参加し、会員間の交流を深めることができます。
- ・情報誌「STEPねっとわーく」が配布されるほか、情報誌等にPR記事を掲載できます。
- ・メールマガジンなどを通じてセミナー、展示会等の開催情報や補助金情報が配信されます。

今年もツバメがやって来た

「燕来る時になりぬと雁がねは本郷偲ひつつ雲隠り鳴く」(大伴家持)。万葉集にも詠われているツバメは春を告げる鳥として飛来し、秋にかけて身近でよく目にする鳥である。私の家の納屋にも毎年、ツバメがやって来て子育てをしている。



いつの頃から来ているのか分からないが、私の物心がついた時には、既に幾つかの家族が立派な家を構えており毎日見上げていたものである。

うちは農家なので、稲の害虫を食べるツバメが営巣することは大歓迎であり、納屋の入り口にツバメ専用の小窓を作り、ヒナが巣立つのを静かに見守ってきた。

昭和の時代には、ツバメとコシアカツバメが3、4家族来ていたが、令和の今はツバメが1家族のみになってしまった。それでも子供が毎年来るのを楽しみにしており、飽きもせず子育てをじっと見ている。



以下、最近俳句を習い一日一句を目標にしている子供の観察日記からつらつらと・・・。

「今来たと顔を並べるつばめかな」(小林一茶)。4月になるとツバメが飛来し、ご近所さんなのだろうか、多い時には10羽以上が家の前の電線に留まっている。さえずりは「土食って虫食ってしぶーい」と聞こえるらしい。そのうち集まっていたツバメもいつの間にやら少なくなってくる。どこに行ったのだろうか？ そうだ、お母さんは家で卵を抱えているのだ。

「燕やひらりひらりと町の中」(正岡子規)。こちらでは、町の中ではなく水田やため池、畑の上空を軽快に飛んでいる。我が家では今年も5羽のヒナが誕生した。カラスやへびに襲われることなく、餌をたくさん食べて、元気に巣立ってほしい。食欲旺盛なヒナは親から餌をもらうために大きな口を開けて巣から身を乗り出して待っている。親は出て行ったと思えば、すぐに餌をくわえて戻ってくる。1日に300～500回も餌を運ぶそうだ。どうりで巣の下の方の糞の山が瞬間に富士山になるわけだ。ただ、この辺りの水田も宅地や耕作放棄地になるのも増えてきて、年々餌を探すのも大変になっているように思える。

「落日のなかを燕の帰るかな」(与謝蕪村)。飛べるようになったヒナが電線に留まっている。大きさも親鳥と引けを取らない程に成長している。毎日、この電線を基地にして飛ぶ練習や餌を取る練習をしているようだ。ここならカラスが来ても、直ぐに納屋に逃げ込むことができる。そのうちヨシ原にねぐらを移すので、この辺りでは見かけなくなる。

小さい秋を見つける頃になると、子供と共に我が家の裏山から夕日が沈む忽那七島を眺めつつ、来年も無事に帰って来てねと心の中でつぶやく。(A.O)



編集後記

最後までお読みいただきありがとうございます。中東情勢の緊迫化に伴うホルムズ海峡の通航リスクにより生じたナフサ不足？ 目詰まり？ によりさまざま影響がでていますが、企業はすぐさまプラスチック使用量削減や代替素材へのシフト等の様々な対応策を実施しており、危機管理能力の高さには驚かされます。このように企業は常にリスクにさらされそれを解消すべく努力しています。当センターは、四国の企業の課題を解決し、未来につながる技術開発や販路開拓を支援してまいります。サッカーワールドカップ2026も終わり、暑さの厳しい毎日が続きますが、どうぞご自愛のうえ、実りある夏をお過ごしください。(H.B.)

STEPでは、インターネットを通じて様々な情報提供を行っております。

● STEPホームページのご紹介

STEPの事業案内として、行事、催し物および個別事業の紹介などを掲載しています。

<https://www.tri-step.or.jp/>

● イノベーション四国ホームページのご紹介

イノベーション四国の事業案内として、行事、催し物および個別事業の紹介などを掲載しています。

<https://www.tri-step.or.jp/s-innovation/>

● 「四国発!ヘルシー食品&素材マッチングウェブ」(ヘルシー四国)のご紹介

四国を中心とした食品素材・商品や提供サービスなどを掲載し、全国の食品関係企業の方々に検索・閲覧していただくことにより、企業間のマッチングを支援するサイトです。マッチングをお考えの食品関係企業様はぜひ企業登録・閲覧会員にご登録ください。

<https://www.healthy-shikoku.jp/>

● メールマガジンのご紹介

メールマガジンでは、STEP事業、国などの公的助成制度および、大学・公設試験研究機関などの、イベント情報および最新情報を、月2回提供しています。

また、STEPが事務局を務めるイノベーション四国活動の浸透と認知度向上のため、協議会事業の一環として情報提供も行っています。

配信をご希望される方は、STEPホームページ／賛助会員制度よりご登録ください。

<https://www.tri-step.or.jp/join/subscription.html>

STEPねっとわーく (STEPテクノ情報)

Vol. 32 No. 2 (通巻 110 号)

発行月 令和 8 年 7 月

編集発行人 杉ノ内 謙三

発行所 一般財団法人 四国産業・技術振興センター

Shikoku Industry & Technology Promotion Center

〒760-0033 香川県高松市丸の内2番5号 ヨンデンビル

Tel (087) 851-7025 Fax (087) 851-7027

E-mail : step@tri-step.or.jp

URL : <https://www.tri-step.or.jp>

印刷所 セキ株式会社

しあわせの チカラになりたい。

じぶんの買いものは、さっと選ぶのに、
大切な人への贈りものは、じっくり選んでしまう。

「よろこんでくれるかな」
不思議と、あたたかい気持ちになる。

相手を想うことで、心が満たされていく。
それが、しあわせとよばれる気持ちなのかもしれない。
そこに人はつながりを感じ、安心する。
つながりが、しあわせを広げていく。

私たちは、そんな気持ちを支えたい。
安心とつながりが広がる未来を、ともに創りたい。



四国電力株式会社

YONDEN



◎特設サイトもご覧ください。